

大臣が二重生活をする家

第百卅圖

大臣の二重生活と云つたところで何も今の大臣を攻撃するわけぢやない。内務大臣の官舎の建築を紹介するのが本旨なんだ。まアこゝに平面圖(第百卅圖)を出しておいたから間取りのことから話して行つた方がいゝだろう。

玄關を入ると寄木張の廣間で、右手には二室の應接室とそれに続いて秘書官室、左手には廣い應接室が二室。普通選舉促進の連中のワイ／＼押しかけて行つて床次さんに面會したのは此のうちのどの部屋だか私は知らぬ。廣間の突當りは梯子段、その脊後に電話室がある。電話室と秘書官室との間の扉をあけると廊下で、その右には判任官何等の屬官殿のお部屋、左には給仕茶目公の室があつて、彼等はポケットからこつそりビスケットをつまんで食べてゐる。廊下は洗面所と便所に導く。

廣間の左手の應接室の一つは正面の扉を排すれば廣いヴェランダに出られ、右手の扉からは寄木張の大食堂に入られる。この扉が開かれると、大臣の招待を受けた代議士先生諸君が、待つてましたとばかりにナイフ、フォークの銀色に輝く食卓として突進するかどうか、それは小生の一向存ぜぬところである。ヴェランダへは大食堂からも出られる。大食堂の一隅には並んで二つの戸口があつて、一つは倉庫の入口、も一つの扉をあけると廊下をへだて、配膳室がある。配膳室に沿ふて廊下が折れて、その突當りがモルタル塗の料理室、左は仕丁室。仕丁先生いくら頑固な顔をしてゐても、うまさうな料理の香ひばかり嗅がされたのでは堪まるまいテ。

廊下を、配膳室に沿ふて折れないで眞直に行くと日本家との接續點に至る。階下平面圖の上部の一棟が日本家で、網目に描かれてゐる突き出た箇所は車寄、それに

接して玄關。玄關の右には執事室、茶の間、女中室(いづれも六帖)と續き、下浴室及洗面所で終つてゐる。玄關の左は六帖の書生室、それに續いて客便所。そして是等の部屋々々の前を長い廊下が一直線に走つてゐる。圖の廊下の白い部分は疊廊下で半黒の部分は板廊

下だ。板廊下の突當りは内玄関。疊廊下は書生室の前で左に折れる廊下を分岐し、執事室の前でも一つの分岐線を出し、この二つの分岐線は八帖の客間と十帖の客間とを挟んでゐる。板廊下も女室の前で左への分岐線を出して、それと疊廊下の第二の分岐線とで、中庭を挟んでゐる。板廊下の分岐線を汽車旅行でもするやうな變な氣持で行くと、左は申すまでもなく中庭、右には台所、奥女中室(六帖)、奥茶の間(八帖)といふ順序で並ぶ。アこれこれ無作法に部屋をのぞいてはいかんぞ。

この廊下のちよいと折れたところが浴室と三疊の化粧室。浴室は云ふまでもなく叩きで半黒に描かれてゐる部分はスノコ敷である事を表はしたんだ。廊下は更に延びて十帖の間と十二帖半の居間に沿ふて走る、そしてその末端は鐵筋コンクリートの倉庫に接してゐる。洋館と日本家との間にある獨立の一棟は汽罐室だ。

こんどは洋館の二階に行かう。梯子段を上ると寄木張の廣間、その左手が浴室化粧室及び便所、正面は夫人室。便所と婦人室との間には寢室への入口がある。廣間の右手には廊下をへだて、應接室がある。廊下の右の端は物置、左の端には大臣書齋の入口がある。應

接室の正面の扉を排して出るとそこはバルコニーだ。廣間の後ろに接して給仕室がある。

まあこれで平面圖の説明がすんだ。ところで一體何故内務大臣官舎にこのやうな大げさな日本家を附屬せしめる必要があつたのだろう。僕が大臣の二重生活と云ふたのはこの事なんだ。いまや二重生活といふ損な形式から早く獨立しようといふ氣持が何處にもかこにも湧き立つてゐるのに、大臣の官舎にこの大げさな日本家は少し餘計なものだ。僕等平民こそ色々の點で二重生活を強いられるのだから止むを得ないが、そこへ行くと大臣の官舎生活などは實に理想的に洋風生活を徹底させることが出来る筈なんだがねえ。それはそれとしてこの官舎の建築的缺點もまた日本家にあると思ふ。なぜといふに、洋館の方をばこれほど丈夫なものに作りながら、それに接續する日本家の方は比較にならぬほど弱いものに作つてあるからだ、これは勿論内務大臣の罪ではない、また建築家ばかりを責めるのも間違つてゐる。罪はトラディションにあるのだ。

この建物は伊東忠太、佐野利器の兩工學博士の工事監督の下に青年建築家小倉強君の設計されたものであつて、次官、秘書官、屬官等の官舎と共に大正五年八月設計に着手、翌

一九八
年四月工事に着手、そして大正七年の八月に出来上つたものである。大臣官舎の延坪は洋館の方が三百七十七坪三合、日本家の方が百十三坪七合である。

この建物の外観は決して莊麗なものではないがしかし新味に富んでゐるものだ。いまは床次さんが内務大臣で此處におさまつてゐるが、このごろは議會がお忙がしくつて、日本家のお座敷で新夫人をお相手に玉露を召上るおひまも中々おありになるまいと思へばお氣の毒だ。こゝには大臣官舎の洋館の寢室(第三百三十一圖)と日本家の居間(第三百三十一圖)と、それから内務次官々舎の應接室(第三百二十二圖)と、この三室の寫眞だけしか出せなかつた。大臣官舎の日本家の居間は十帖と十二帖半とが襖で仕切られて接続してゐる。この寫眞は十二帖半の方である。床、書院、棚、共に奇抜なところもない代りに全體としての厭味もない。右の廊下は板の廊下で、左のそれは疊廊下である、兩方共に硝子戸が立てゝある。右と左とから光線がはいるのであるから、さぞ明るいことだらうと想像される。次官々舎の應接室はちよつと面白いものだ。第三百二十二圖の寫眞に見る通り右手の出窓の下には腰掛が造り附けになつてゐる。窓は三つ連なつてゐるが寫眞には二つしか見えてゐない。そ

第三百三十
一圖
第三百三十
二圖

の中央の出窓の窓台は前方に半圓形に延びて机になつてゐる。だからこの半圓卓を挾んで左右に造り附の腰掛があるわけである。三つの窓全體に沿ふて腰掛があるよりも此の方が面白い。左手には硝子戸があるが、この戸を開けて出ると、そこはヴェランダになつてゐる。

次官の官舎の延坪は洋館の方が七十四坪九合五勺、日本家の方が八十五坪三合四勺ある。日本家の方は割合に廣く、子供部屋や老人室といふやうな、大臣官舎に無いものまである。これは次官の方が任期が大臣に較べて長いからだろうか。その邊のところは僕には分らない。その代り洋館の方は小さく、階下は玄關を上つて廣間。それに續いて正面に應接間兼食堂、右に應接間があるだけだ。後者に接続してヴェランダがある。階上は書齋と客室と豫備室とがあるだけに過ぎぬ。費用は大臣、次官、秘書官、屬官の官舎、門衛所、傭員官舎、自動車庫其他一切の工費を合して總計三十五万円を要したさうだ。

丘の家

第三百三十圖

都に近い海濱——歴史に名高い古蹟や大きな伽藍などの多くあるので國中に知れ渡つてゐる海邊の土地の小高い丘の上に立つてゐるのが、第三百三十三圖に見る家です。青い松林を脊負ひ、日の光に輝く蒼海を直ぐ目の下に見おろしてゐます。別荘ですから間取り（第三百三十四、五圖）は簡單ですが、思ひきつて廣くテラスをめぐらしてあるので、いかにも夏の生活にふさはしい家であると想はせます。寫眞は家の前面で、石段の終るところが入口になつて居ります。この家の特色は音樂のやうな曲線の魅力です。居間もテラスも、恰も波の脹れるやうに、その一端がふつくと氣持のよい孤線を描いてゐます。バルコンの腰のなだらかなふくらみにしろ、湧きあがつたやうな屋根の窓の曲線にしろ、その側に恰もお伽嘶に出てくる覆面の盜賊のやうに顔を突き出してゐる寢室の凸出部にしろ、またそ

第三百三十圖

第三百三十圖

の間に飄輕に脊のびをしてゐる細い煙突にしろみんなそれぞれ樂の音で、それが合して實に美しい諧調を奏でゝゐます。海の波の音樂的な起伏が結晶して此の家が出来たのではないかと空想されるほど線の魅力的な建物ではありませんか。

英國趣味の郊外住宅

英吉利以外の國には、亞米利加合衆國に適用し得るやうな近代住宅は甚だ少ない、と斯う亞米利加の住宅雜誌記者は言ふてゐる、そして其の理由は今亞米利加の建築家が住心地よき住宅の設計に於て他國に先んじてゐるからださうである。第三百三十六圖以下に紹介するのは、其のやうに自惚れてゐる亞光利加に於て新築されたる近代英吉利式に據れる郊外住宅である。此の建築の特色は單純と簡素とを基調としてゐる點にある。そして建築家は此の特色を最もよく高調するために灌木と蔦とを豊富に而も巧に使つてゐる。壁は水漆喰

(ホワイト、ワツシュ)でもつて白く塗られ窓は金屬骨の開窓である。雑色のスレートで葺かれた屋根は青空の下に面白い効果を見せてゐる。煙突は如何にも安定の感じを持つてゐて、其の頂上の快輕な庇は溫和な影を投じ、そして全體の線に變化を與へてゐる。最も單純簡素な技巧の藝術的效果は斯ういふところにも表はれてゐるのである。家の間取り(第三百三十六圖)は幾分不規則になつてゐて、却つて其れが面白い結果を見せてゐる。一隅にはホールよりも一段低くなつて大きな居間がある。ホールを挟んで居間と相對してゐるのは食堂で、一列の大きな開窓が此の室を氣持よく明るくしてゐる。第三百三十九圖に於て切妻屋根の壁面の一番下に並んでゐるのは此の窓で、周圍には蔦が豊かに繁つて這ふてゐる。矢張り第三百三十九圖に於て家の右の部分に五つ並んでゐるのは居間の窓で、居間と食堂との間に入口の硝子扉が見える。食堂の一隅の扉を押せば食食用のテラースに出られる。其處には石が敷かれ緑の籬がめぐらされて屋外の楽しい食事の用意がととのへられてある。家の前面も細長い一帯の舗床のテラースになつてゐて寫眞に見る通り芝生との境には低い籬がつくられてゐる。ホールから鍵手に曲つたところに裏の入口があつて、こゝから裏の

第三百三十六圖

第三百三十九圖

第四百四十七圖

第三百三十七圖

テラースや庭園に出られる。第四百四十七圖は家の脊面であつて此の裏の入口が見える。

階上(第三百三十七圖)は寢室になつてゐる。主人の居間兼寢室は恰度階下の居間の眞上に位してゐて、更衣室や浴室が附屬してゐる。浴室と隣つて客の寢室があつて此處にも別に浴室が附屬してゐる。左端は女中の居間兼寢室で矢張り特別の浴室が附いてゐる。他にもひとつ寢室がある。是等の一組の寢室の中心にはホールがある。そして階上には廣い押入が可成り澤山設けられてゐる。一體此の家の敷地は第三百三十八圖に見る通り平らな長方形である。そして道路から遠く引込んだところに家の入口を設けたのは、長方形の郊外の敷地としては最も當を得たものと言ふてよからう。家の脊後にも空地を残して、其處は石敷きのコート、庭園及び物干場に區劃されてゐる。家の周圍には常綠樹や灌木が要領よく植え込まれて、道と家とを隔離してゐる、そして其等の植物と白壁との對照は洵に理想的であると言ふてよからう。

第三百三十八圖

伊國趣味の家と英國趣味の家

第四百一
一圖

第四百一圖に見る家は伊太利の農家を思ひ出させるところのものです。屋根は伊太利の古い瓦で葺かれてゐますが、其の瓦の色は蔦色のところもあり赤のところもあるといふ風で變化に富んでゐます。そして其れがセメントで歐羅巴風に重々しく接がれてゐるので粗い織目のやうな外觀を見せてゐます。壁は褪黄色の漆喰を強く押したものです。窓扉は青味の勝つた緑色に塗られてゐます。第四百二圖は居間のポーチで家の一端に張出てゐるのですが、様式は他の部分と同一で、粗い黄色い漆喰の壁と赤い伊太利瓦の屋根とを見せてゐます。窓枠は明るい空色に塗られてゐます。このやうな色を家の外部に用ゐると案外佳い効果を生じます。殊に樹木に對しては其の美を引立たせる背景として役立つのです。

第四百三
三圖

第四百三圖は英吉利の小さな莊園邸宅の面影を表はしてゐる家です。壁體の煉瓦は暖

第四百四
四圖

い灰色ですがそれが少し凸出して積れてゐる自然色の煉瓦によつて周圍を縁取られてゐます。屋根は赤い瓦で葺かれ幾つかの煙突と一箇の鳩小屋とを載いてゐます。百四十四圖は玄關です。この玄關の外觀は全く古典的ですが、しかし其細部は必ずしも古典的な處ばかりではありません。片蓋柱の後ろの線形や上部の渦形持送(コンソール)の單調な線などは決して古典的ではありません。然し是が單純な周圍とよく調和してゐます。深く引込んでゐる閑素な開窓と明青色の屋根を持つ張出窓とは此家の正面に特殊の趣を沿へてゐます。

植民地式を近代化せる家

第四百五
五圖

植民地式(コロニアル・スタイル)といふのは一七二五年から一七七五年までの間に北米に發達した建築様式であります。こゝに紹介するのは此の植民地式を近代化して小住宅に適用したところのものです。第四百五圖は其の正面であります。屋根の思ひ切つて彎曲

させた傾斜面は此の家に一種獨特の外観を與へてゐるのです。第四百十六圖は脊面に出張てゐるところの臺所と裏ポーチとです。臺所もポーチも面白い細部を示しています。臺所の壁面からは煉瓦の煙筒が高く積み上つてゐて、それに裝飾的な格子細工が取付けられてゐます。夏はこれが緑の蔦の葉で一杯に蔽はれるでせう。それとも眞紅な花の咲く蔓薔薇が絡まるのでせうか。裏ポーチは煉瓦の床になつてゐて、柱の間は矢張り格子になつてゐます。第四百十七圖の寫眞は此の家の表ポーチです。極めて裝飾的に取扱はれた植民地式を示してゐます。殊に曲線を描いてゐるフレームとサイド・ライトとは秀逸です。そして煉瓦の床は此のポーチに一種の暖い色彩を與へてゐます。

間取りの具合は第四百十八圖に見る通り極めて單純です。階下で最も大きな部屋は居間で此の居間が階下の主要の地位を占めてゐます。そして其の一方にホールと食堂と配膳室が附屬し、其の他方に臺所と裏ポーチとが張出てゐます。階上の間取りも同様に極めて單純です。主人室(寢室)と寢室とがあつて、この二室に狭まれて小さなホールと浴室とがあります。そして寢室の後ろに小さな圖書室が附いてゐます。この間取りの上から見ても此

の家は新婚の夫婦などの住むにふさはしい郊外の小住宅です。

日本に出來た木造アパートメント・ハウス

アパートメント・ハウス(apartment-house)といふのは、申すまでもなく、幾組かの住宅が大きな建物の中に綜合されてゐるものです、言ひ換へれば、一の大きな建物の内部が多くの室に分れてゐて、そして其等の室の幾つか宛が、相連なつて一の住宅となつてゐるのです。それですから其の大きな建物の入口は共同のものですけれども、この共同入口をはいれば、内部の各住宅の入口は専用のもとなつてゐるのです。歐米のアパートメント・ハウスにあつては、其の内部に含まれてゐる幾つかの住宅は各々、居間・寢室、食堂・臺所浴室・便所等を具備してゐるのですから、獨立の家と殆んど異なるところが無いのです。場合によつては應接室や書齋や圖書室が附屬してゐることもあります。アパートメント・ハ

ウスは一種の貸長家であるから、日本の人々は直ちに物質的に低級な生活を聯想するかも知れませんが、それは間違つてゐます。物質的に富裕な人々や社會的地位の高い人々が好んでアパートメント・ハウスに住んでゐるのでありますから、小さくとも獨立した一軒を貸りて家庭を營むことを理想としてゐる日本の人々の心理を以てしては或は解釋が出來ないかも知れません。私共はよく活動寫眞などで立派な紳士がアパートメント・ハウスに住んでゐるところなどを見ることがあります。「私のアパートメントへいらして下さい」と其の紳士が相手に言ふてゐるのが字幕に現はれることもあります。名刺に其の住んでゐるアパートメント・ハウスの名が刷つてあることもあります。私共が「何々方」と名刺に書き入れることを恥しく思ふのとは大分相違してゐるではありませんか。それもその筈です。あちらでは其の住んでゐるアパートメント・ハウスの名を書き入れるのは、日本で言へば「精養軒ホテル内」或は「帝國ホテル内」と書くのと殆んど同じなのですから。それほどまでに高級なアパートメント・ハウスがあるのです。勿論高級なものもあり然らざるものもあるといふやうに種々雑多でありますけれども、要するに近代の都會生活は高級なもの

にしろ低級なものにしろ、兎に角アパートメント・ハウスの形式による住宅を必要とするといふ事は否定し得ないであります。

最も設備の新しいアパートメント・ハウスは米國に於て見られますが、それに就いて佐藤功一氏は次ぎのやうに説明して居られます。——「其の小さいものにあつては一床二戸づゝのもの三階、即ち三階六戸のものもあるが、大きいになると高さも十數階で數十戸に別れて居るものがある。」

此處で「戸」と言ふのは前述せる如き一の大きな建物の中に含まれる幾つかの住宅の一つを指してゐるのです。佐藤博士は更に其の「戸」の組織を説明して居られます。——「二戸の室數は、厨房を加へて四室——便所を含んだ浴室を別として四室のものが最も多く、これに次ぐものは三室、五室、二室、六室などのものである。其の一戸の大きなものでは富者の居住のために二十四室に至るものがある。一戸一室のものはないではないが、一般アパートメント・ハウスとしては、小さなものでも二室以上のものを擧げなければならぬまい。」

然らば最も簡易なアパートメント・ハウス、即ち二室のものゝ組織はどうであるかとい

ふに、——「二室のものは普通一方が居間で一方が寢室になつてゐる。寢室には二人用の寢臺が置かれ、これに附屬してバス・ルームと稱して浴室と便所とを兼ねた小室が付いて居り、又居間の方は此處で食事もするのであつて、其の一方の壁の所には、小さな瓦斯竈と、食器棚と、冷蔵庫と、下から食料や器物などを搬ぶための小昇降器がついて居るのであるが少し注意した設計のものには、是等の全設備を一つの押入ふうの小室の内に納めて小厨房と呼んでゐる。要するに居間と寢室（ベット・ルーム或は單にチャンパーなどと呼ぶ）と厨房との三つからなり、これに浴室兼便所の小室がついて居る型を、先づアパートメント・ハウスの中の一戸の最も小さく纏まつてゐる形式と見てよからう。そして其の各室の大きさは、居間が日本のものにして八疊から十疊位、寢室が六疊から八疊位、厨房が四疊から六疊位である。浴室は幅六尺に長さ八尺を最小限とする、勿論浴槽は臥浴槽で普通長さ五尺五寸位であるから、此の室は豎に長い方が宜しい。此の位の大きさで浴槽一つと洗面臺一つと、便器一つと、齒磨や石鹼などを入れる浅い棚を取り付ける事が出来る。」

「これより大きくなると厨房と共に四室——浴室を入れて五室のもので、それには厨房

を除いたあとの三室の内一室を居間に他の二室を寢室にしたものもあるが、一般としては一つを客室、一つを食堂、一つを寢室に取るのである。此の組合せを先づアパートメントハウスの最も普通なる一戸の形式と見るがよい。勿論寢室には巧みに押入が取られてある」

「斯ふいふ各室の組合せから成る各戸が共通の正面玄関と共通の階段及び昇降器と、共通の廊下或はホールに依つて結び付けられて、大きな高架的の建物を構成する。そして各戸に入るには、是等の共通の廊下或はホールからするので、是等の廊下或はホールが、地上の建物ならば道路に當るものである。各戸の入口は此の廊下或はホールに向つて唯一つある丈で、此の入口を入れれば其處に一寸した玄関或は廊下のやうなものがあつて、これから居間や食堂や寢室や厨房などの各室に行き得るやうになつて居るのである。單にこれ丈けの話では、入口の所を他人から窺かれるやうに思はれて不安心のやうではあるが、此の入口の戸は、内部からは握りを扱ねれば自由に開き得るが外部からは鍵を以てせなければ開き得ぬやうになつて居り、此の錠前が又異つた形の薄い鋼板を幾枚も合せて作つたもので、相鍵は到底用ゐ得ぬ事になつて居り、鍵は家の人と管理人とが持つて居る丈けであ

るからその心配はない。」

佐藤博士は米國の最も簡便なアパートメント・ハウスの組織を大體以上のやうに説明して居られます。此の説明をよく頭の中に入れて置いてから、日本に新しく出来た木造のアパートメント・ハウスをお覧になれば、一層興味も深く且つ有益な暗示をも得られるだらうと思ひます。

そのアパートメント・ハウスといふのは東京の新宿旭町に來たもので、竣成したのは去年の春です。西垣といふ人が設計したものだといふことです。

第四百十九圖
第四百五十圖
第四百五十一圖
第四百五十二圖

建物は木造の二階建てです。第四百十九圖の向つて左の建物は此のアパートメント・ハウスの正面です。向つて右の白い漆喰造の家は附屬の簡易食堂です。第四百五十圖はアパートメント・ハウスの側面です。此の二つの寫眞で見ても分る通り此の建物の外觀は全然洋風であります。内部の各戸は全然日本風に出来て居ります。内部の組織は第四百五十一圖及第四百五十二圖の平面圖を参照して下さい。

先づ一階から説明しますといふと、共同の入口(表玄関で平面圖の向つて右端)があつて

此の入口の兩側は物置になつてゐます。入口をはいると其處は廣間で、正面に受付、右に事務所があります。廣間の左には二階に至る階段があつて、此の階段の前は一帶の広い廊下になつてゐます。此の廊下の右側には賣店と五戸の住宅とが列んでゐます。第一番目は賣店です。賣店の後ろには應接室があつて、其處へ行くには賣店と受付との間の路を通ります。第二番目は賣店の店員詰所で、此の側の路を通して後ろの新聞縦覽室に行かれるやうになつてゐます。

賣店と店員詰所とは廊下に面したところが窓になつてゐますけれども、其の前を通つて第三番目の室を見ますと、其處は廊下に面したところが日本風の格子戸になつてゐるので一寸驚かされます。即ちこれが此のアパートメント・ハウスの一戸の入口なのです。このやうな格子戸が廊下に面して五つ列んでゐるわけです。第一番目の格子戸を開けると、狭い土間に續いて板の式臺があります。式臺の正面は普通の障子で、この障子を開けると直ぐ其處は二帖の一室です。この室の正面は襖になつてゐて、それを開けると六疊の一室があります。この六疊の室の正面は窓で一隅に釣床が設けられてあります。これだけが此の

一戸の有する部屋です。即ち二帖と六帖との二室から成立つてゐるのです。押入は二帖の室に一間と土間及び式臺の右に半間と取つてあります。隣戸との境界は勿論壁です。他の四戸も是と全く同じ構造ですが、唯だ是の直ぐ隣りの一戸だけは、二疊の室が三疊になつて居り、六疊の室が八疊になつてゐますから他に比して少し廣いわけです。最後の一戸に隣接して預品庫があつて貴重品などを保管する便宜を計つてゐます。廊下の突當りは再び二階へ昇降する階段になつてゐます。各戸の室は窓を除けば他はすべて日本風に出來てゐます。

廊下の反對側には數種の共用室が張出てゐます。即ち、入口に近い階段の傍には便所と洗面所、廊下の中程のところには公衆洗濯場と男湯及び女湯、突當りの階段の傍には便所と洗面所が張出てゐます。勿論廊下には幾つかの窓があつて、各戸の格子戸内の採光を計つてゐます。

第三百五十三圖

二階は廊下を挟んで兩側に各戸が列んでゐます。第三百五十三圖は即ち此の二階の廊下の寫真で、格子形の天井と言ひ、蕭洒な格子作りの入口と言ひ、全く傳統的な日本風に出來

第三百五十四圖

てゐることが分るでせう。内部の構造は階下と大して異つてゐません。

先づ階段口と並んでゐる格子戸の前に立ちませう。第五十四圖は此の格子戸です。格子戸の上は硝子窓になつて居り、左側の壁の上部には隅取り長方形の障子窓が附いてゐます。格子窓を開けると其處は二疊の玄關室みたいになつてゐて、半分は土間、半分は式臺になつてゐます。式臺の正面の障子を開けると三疊半の室です。この室の正面には二つの窓があります。是等の様子は第三百五十五圖に見る通りです。この家の主人公は三疊半の室を茶の間として使つてゐると見えて窓際に長火鉢が据えつけられてあります。

第三百五十五圖

此三疊半の室は玄關室の側面に沿ふて鍵の手に折れてゐます。この折れ込んだ室の正面の壁に付いてゐる窓は、第三百五十四圖及び第三百五十五圖の格子戸の側の壁の上部に付いてゐる隅取り長方形の障子窓と同じです。この折れ込んだ一疊の室では、ちよつとした煮物をしたりコーヒーを沸かしたりすることが出来ます。さて三疊半の室の左手は襖になつてゐて、この襖をあけると、そこは八疊の室です。この室には一間の押入と床の間が附いてゐます。窓も三ヶ所に附いてゐます。第三百五十六圖は八疊の室から三疊の方を見たところ

第三百五十六圖

で、二枚の障子は即ち三疊半の室と土間及び式臺とを隔離してゐるところの障子です。

このやうな三疊半と八疊との二室から成立つ住宅が廊下の兩端にあります。即ち第百五十三圖に見る廊下の突當りに此の二戸の格子戸があるのです。廊下の一方の側には此の兩端の二戸に連続して三戸の住宅が並んでゐます、その玄関室は前のものと異つて豎に長い二疊で、それを斜めに仕切つて半分を土間、半分を式臺としてゐます。それですから土間も式臺も三角形みたいになつてゐます。式臺の正面の障子をあけると三疊の室です。玄関室の側面に沿ふて折れ込んでゐる空間は此處では押入に利用されてゐます。三疊の隣は六疊の室で、矢張り襖で隔てられてゐます。六疊の室には一間の押入と床の間とが付いてゐます。窓は兩方の室に一つ宛付いてゐます。このやうな二室から成立つ小さな住宅が三戸列んでゐるのです。

廊下の反對の側にも同じやうな住宅が三戸並んでゐます。平面圖の向つて右端のものは三疊と六疊との二室から成り、中央のものと左端のものとは、四疊半と八疊との他に、玄関室の傍に小さな二疊の室を持つてゐます。

二階に於ても左右の階段の側に各々洗面所及び便所が張出てゐます。

このアパートメント・ハウスは階下が五戸、階上が八戸、都合十三戸を抱合してゐるわけです。そして米國の普通のアパートメント・ハウスと異つてゐるのは、便所や浴室を共にした點です、これは日本人の習慣の甚だ調法なところでせう。それから圖面には現はれてゐませんが、炊事も共同炊事場でやることになつてゐます。お米を各戸で炊いて食べる習慣の國民は斯ういふ點になると甚だ不便です。或は炊事を共同の室でやるといふ事が、此のアパートメント・ハウスに住む主婦の最も苦痛に感ずるところとなるかも知れません。しかしそれにしても獨身者や新婚夫婦の住むには最も適當だらうと思ひます。經營者も其の點に留意したと見えて、此のアパートメント・ハウスに直ぐ隣接して公衆食堂を設けました。これは一般の人々に開放されてゐるものです。アパートメント・ハウスに住む人々は此の食堂から米飯を配達して貰ふやうにすれば簡便なわけですか、實際の事情は記者には分りません。

しかし兎に角にも此のやうなアパートメント・ハウスが出来たといふ事は都市生活上の

興味ある一つの現象であると言はなければなりません。勿論これは木造でありますがつと都市的な場所に建てられる場合には當然耐火構造でなければならぬでせう。しかし此のアパートメント・ハウスのやうに内部の組織を全然日本風にするには記者は全然不賛成です。殊に格子戸を用いたのは餘り洒落が過ぎてはゐませんでせうか。たつた二室の家にとつては一疊乃至二疊の玄關でも貴重な空間です、然も格子戸であるために此の玄關室が、外部から赤裸々に見えるので、殆んど何にも此の室を利用する事が出来ませんこれは甚だ不經濟なことです。この程度の家ならば二枚の戸を立てる必要がありません。半間の硝子扉一枚で澤山です。そして玄關室に書棚や其他のものを置くにいやうにした方が便利だらうと思ひます。それから、こんな狭小な住宅にわざ／＼床の間などを取る必要はあるまいと思ひます。床の間の占めてゐる空間を作り付けの棚にでもした方がこのやうな小住宅の趣旨にも適ふ筈のものではありませんか。記者の意見としては、初めから全然洋風の室内にした方がよいと思ひます。それに就いて佐藤功一氏は洵に適切な説を發表して居られます、それは斯うです、——「各個人が各人の趣味に依つて思ひ／＼の

家を建てゝゐるやうな事では到底理想に近いものは得難い。これは一般住家の質の問題もさうであるが量の問題の如きも到底解決する事は難事であると思ふ。どうしてもこれは國家なり公共團體なり公益的の大會社なりの手に依つて大資本主義の下に經營されるのでなければ改善は望み得可らざるものと考へられる。それには爲政者や經濟學者や社會改良家や建築家などが中心となつて、一定の企劃の下に多數の住宅が建てられ各人がこれを借入れるなり買取るなりして其の家に依つて新しき生活方式を教へられるといふやうにするものでなければ住家の眞の改善は不可能である。若し斯くの如く新に計劃せられた住宅の一團が出来て各人がこれに居住して見て、若し環境や邦人の性情や經濟上などから何うしても忍び得ざる點あらば次に建築さるゝ一團に付ては是等の點を充分に研究して、これを除いて更により良くするやうに進めて行く可きであつて、當初から和洋折衷など、首をひねつて居るのでは何も出来るものではない、最初が最も肝要である。最も進んだ外國の形式を先づ實驗にかけて見る可きである。曾て邦人が汽車を採用した時（狭軌式の採用は或る折衷案から出た爲めに根本に誤謬に陥つてしまつた）、自動車を採用した時、邦人の生活程

度や坐式の方法などを考慮に入れなかつたではないか、しかも今日誰一人として是等の汽車や自働車を日本に適せぬといふものもないのである。」

煖房の解決さへつけば是れからの人は寧ろ喜んで洋式の室内に住むやうになるであらうと記者は考へます。

クラシック趣味の客間

第七百五十七圖

第七百五十七圖は赤坂に新築された某氏の邸宅の客間です。家具の意匠は、たしか梶田恵君の手になつたかと記憶して居ります。室の隅に大理石の煖爐がありますが、その浮出しの模様にしる、兩側の雙立の圓柱にしる、また小壁の浮彫のフェスツーンにしる、純粹にクラシック趣味のもので極めて沈靜澄明な感じを與へます。椅子や卓や火鉢なども亦此の感じにふさはしい沈着なものです。

お蝶夫人の窓

第八百五十八圖

第八百五十八圖は日本座敷のやうに見えるけれ共實は西洋人が日本趣味を眞似て作つた窓です。食堂の庭に面した窓だけを此の様に作つたのです。そしてお蝶夫人マダムタカラウイッペンダーの窓と呼んでゐます。歌劇で名高いお蝶夫人は日本趣味の代表者と思はれてゐるらしい。この窓は床の間と障子とを一しよにしたものです。障子に於ける水平線と垂直線との交叉が非常に簡素な諧調を感じさせると歐米人が云つてゐます。この障子は紙張りではなくすり硝子です。

ノルマンデイの農家

第九百五十九圖

外國の古い農家にはなかなか面白いものがある。第五百五十九圖の寫眞は佛蘭西のノルマンディ地方の農家で、屋根は小麥の藁で葺かれ鷹揚な波形を描いてゐる。壁は白漆喰でぬつて、曲つたまゝの木をそのまま使つてゐるのが見える。それが白い壁と對照して、素朴な面白味を出してゐる。このやうな面白味は日本の農家には求められない。側面には梯子があるが、二階を獨立した室として使ふための梯子である。此のような農家の獨特の面白味を日本の別荘などの設計に取り入れたならば必ず興味の深い効果を得られるだらうと思ふ。(今和次郎君の解説)

スカンディナヴィアの農家

第九百六十圖

第九百六十圖の寫眞はスカンディナヴィアの農家であつて校倉づくりの露西亞型とも云ふべきものである。屋根は板葺で全體として木材の豊富な寒氣の強い地方のタイプを示して

ゐる。入口には別にポーチを附しポーチの柱は曲線を描いてゐる。この家は一見して如何にも北歐風の氣分を感じさせる。尙ほ窓の前には花壇のつくられてゐるのが見えてゐる。

(今和次郎君の解説)

本棚に用ゐる壁龕

第九百六十一圖

日本の床の間を第九百六十一圖の寫眞に見るやうな壁龕にしたならば實用的でもあり裝飾的でもあるでせう。此の龕はシムブルなだけ却つて書籍の列を引立たせてゐます。広い室なら壁の所々に此のやうな龕を設ける事によつて壁面に面白い變化を與へる事が出来るでせう。伊太利風の蠟燭立ては室を魅力的にしてゐます。

住宅の祖先を見る

勇士トリスタンと美妃イゾルデとが追手をのがれて森の奥深く分け入りました。そして森の中で幾年間かを過ごしたといふことですが、さて彼等は森の中でどんな生活をしたのでせう。夏は草の上に寝てもよかつたのですが、冬になつてはさうもいかないので、トリスタンとイゾルデとは岩の穴に住んでゐました。寒さの爲めに固まつた地面の上に氷が枯葉の床を敷きました、けれども深い愛情のために、二人とも自分達のみじめなことを感じませんでした。しかし春がくると、彼等は大きい木の下に緑の枝で小屋を建てました。トリスタンは子供の時から小鳥の啼聲を真似ることが器用でした。彼は様々の小鳥の啼き音を真似ました。時々彼の鳴きまねに誘はれて多くの小鳥が日向の枝に囀つてゐました。——と斯う或る詩人が述べてゐます。

冬は洞穴、春は緑の小枝の小屋に住んだといふことは面白い話です。トリスタンとイゾルデは家を作る術を知つてゐても道具も人手も無かつたから作る事が出来なかつたでせうが、人間が何万年かの昔、未だ家を作る術も知らず、木を切る金属の斧も無かつた頃には矢張り洞穴か小枝を編んだ小屋に住むよりほか仕方がなかつたでせう。人間の住家の祖先は全くみじめなものだつたに相違ありません。今でさへも智識の低い野蠻人はやつぱり洞穴や小枝の小屋に住んでゐます。この様な野蠻人の生活を觀察すれば、私共は私共の住家の祖先の面影を知る事が出来るのです。尤も人間も全く家といふものを持たなかつた時代もあつたでせう。野獸と同様で、殆ど一年中裸體で暮し、雨が強く降るとか、日光が烈しく照るとかする時には葉の繁つてゐる樹の下に群がり、猛獸に追ひかけられれば急いで樹の上に登つて難を避けたでせう。冬になれば、洞穴に棲んでゐる野獸を追ひ出してその洞穴を占領したでせう。人間は火を作る事を知つてゐたので火で以て猛獸共に勝つ事が出来たのです。しかし間もなく人間は、葉のついたまゝの木で第六十二圖の上段の寫真に見るやうな小屋を作ることを知りました、それから木の枝を編んでそれに泥を塗つて前

のものよりは稍々進んだ小屋を作る事も知りました。今でも随分開けない野蠻人がゐます。南アメリカの南端・マヂェラン海峡附近の島の土人は衣服も一定の住所もなく、行きあたりばつたりの所に粗末な小屋掛をします。

先づ灌木の茂つてゐる場所を選んで、三四の木の枝を幹に着いたまゝ、撓曲させ、その頂點を結び合はせて恰も傘の骨組のやうにします。それから他の木から切つてきた枝を其の骨組に横に添へます、かくて自然のテントが出来上るので、彼等は夜になれば此の樹葉のテントの下に這ひ込んで寝るのです。まあ野獸よりは少しばかり上の生活ですね、オーストラリアの土人も是と似たり寄つたりで、彼等は枯樹の皮をはがして、それを互に寄せかけて雨露避けを作ります。フィリッピン群島の矮小黒人も漂浪生活をしてゐますが夜になると矢張り雨露避けを作ります。時としては岩の洞穴に住むこともあります。矢張り太平洋の南の島であるところのフワン、フェルナンデース島の洞穴は寫眞（第六十二圖の下端）を出しておきましたからお覽下さい。私共の何萬年か前の祖先は未だ知識の程度も極く低く、野蠻人でしたから、きつと此のやうな洞穴を住居としてゐたに違ひありません。

その證據には、佛蘭西や英吉利で、未だ石器を用ひて金屬の使用を知らなかつた頃の人間の住んでゐた洞窟が幾つも發見されました、それらの洞窟からは、人間の用ゐた燧石製の道具や骨製の道具が澤山見出され、また或る洞窟の壁面には美事な繪が描いてあつたりするので、石器時代の人間の住んでゐた所だといふことが分るのです。今でこそ私共人間は高尚な趣味を表現したり科學の知識を應用したりして立派な住家を営みますが其の住家の祖先の姿を探つてみれば随分みじめな有様です。

エル・グレコの家

エル・グレコといふのは十六世紀末葉の西班牙の名高い畫家であります。彼の傳記の精しいことは少しも分りません。生れた年月さへも分りません。たゞ一六一四年四月七日に死んだのだといふ事だけは明らかであります。多分一五四五年から一五五〇年までの間に

生れたらしいといふ事になつてゐますから七十歳前後に失くなつたのです。彼は地中海のクリート島の生れで、青少年時代には伊太利のヴェニスに行つたり羅馬に行つたりして繪の修業をやつたらしく思はれます。一五七〇年頃には羅馬でチシアンの弟子になつてゐました。しかし突然彼は西班牙に行つて其の國のトレドといふ都に住むことになつたのです。多分一五七五年の頃だらうと思はれます。彼はトレドに定住し、贅澤な生活を営みながら幾多の傑作を描き、西班牙の代表的藝術家として其の一生を終へたのです。これからご紹介するのは彼が贅澤な生活を送つたといふ邸宅であります。

この邸宅はグレコが始めて營んだものではなく十四世紀中葉に猶太人の富豪が經營し、それが幾世紀かの間いろいろの變遷を経て遂にグレコの住む家となつたのであります。言ひ漏らしましたが、グレコの本名はドメニコス・テオトコプロスであります。

西班牙の都トレドの一隅に美しい木立に縁取られた廣い原場があります。この原場は以前猶太人街であつたところの場所の東端で、サント・トメの優雅な塔からも遠くありません。此の原場のあるところから土地は急に険しい傾斜を成して居ります。そして此の傾斜

地に十四世紀の中葉にシムエル・レヴィといふ富裕な猶太人が宏莊な邸宅を營んだのであります。この猶太人はカステイルの王ベドロ一世の寵臣で、其頃はベドロ一世の全盛時代でありました。

レヴィは次第に勢力を増し富裕になるに従つて、その邸宅をもつと取り擴げようと思ひ立ちました。そこで元來敷地が傾斜地ですから其の高低の不均等を失くするために煉瓦で幾つかの穹窿を作らなければならぬことが分りました。そして彼は其の通りを實行したのです。ずつと昔羅馬人が此の地方を支配してゐた時分にも彼等は同様に穹窿を用ひて地下工事をしたのです。レヴィの工事を請負つたのはマジアル人でしたが彼等は昔の羅馬人のやりかたを其の穹窿の様式に適用したらしいのです。

傳説の教へるところによればシムエル・レヴィが其の夥しい財寶や商品を納めておいたのは、是等の穹窿の中だつたとの事です。彼は變化の多かつた戲曲的なベドロ一世の治下に於ける最も顯著な光彩のある人物の一人でありました。彼は奮闘家で自分の企てた事は萬難を排して飽くまで意志通り實行しないではゐませんでした。

彼は自分の仕へてゐた國王即ちベドロ一世の弱點をよく飲込んでゐて、それを巧みに利用して益々國王の寵を深めて行きました。

しかるに國王は其の義理の兄弟と不和を來たして遂に戦ひをするやうになりました。そのために色々と軍事のためや贈賄のために資金が入用になつたのです。さうして此のやうな戦争の結果として起つたところの王國の財政窮迫と家臣の墮落とは随分甚だしかつたのです。しかるにシムエル・レヴィは此の破壊された秩序を自己の財力で以て恢復したのです。これも國家のためにやつたのではなく畢竟は自己自身の利益のためにやつたのです。彼はまた是によつて自己と同宗教の猶太人の利益を計つたのです。それ故にカステイールに於ては猶太人の勢力が非常に盛んになつて土着の市民は猶太人によつて其の生活の資を得させて貰ふやうな仕末になりました。

かくの如くカステイールの宮廷に猶太人が繁榮するやうになると、それと反對に一般市民は大へん憐れな状態にならざるを得ませんでした。しかし猶太人にとつては實に幸福な時代でした。彼等は彼等のために建立した教會堂に斯う書きました。「いまや神は吾々を吾

等の敵の力より解放し給へり、而して吾等の俘はれの時代より此のかた今よりも安全なる穩れ家を吾々は曾て持ちたる事なし」と、それほどまでに彼等は繁榮と幸福とを意識したのであります。そして是等の言葉の書かれた猶太人教會堂の建築は千三百六十年に落成したのであります。此會堂はドン・シムエル・レヴィの邸宅と直接に通ずる様に出來てゐました。然るにレヴィの榮華も遂に終末を告げなければならなくなりました。凡ゆるものゝ妻が突然に變つたのです。それは千三百六十年の暮のことでありました。レヴィと其家族とは總て囚はれて獄に投ぜられたといふ驚くべき飛報がトレドの町に弘まつたのでした。トレドの町には國王が住んで居られたのでした。何故に國王の寵臣であつたレヴィが突然囚はれて獄に投ぜられるやうな事になつたのでせう。トレドの町の人達は皆な不思議がりましたが眞情は分りませんでした。レヴィの繁榮が餘りに盛んだつたので或る一派の猶太人の嫉妬を買ひ、其等の者共の陥れるところとなつたらしいのです。勿論これも一般市民の單なる想像に過ぎませんでした。しかし事實らしいのです。彼は同じ宗教を奉ずる同じ血族の人間に裏切られたのです。彼の繁榮は寧ろ彼の仇となつたのです。そして多分彼の莫

大な財寶が國王の慾念を刺戟したのでありませう。かくて遂に曾てあれほど勢力のあつた猶太人レヴィも其の一族と共に囚はれて監禁され、彼がトレドに蓄へて置いた財寶は總て取上げられてしまつたのです。それは實に莫大なもので、金貨が十七万ダブルーン、銀貨が四千マルク、それから金絲や、絹の衣裳の一杯に入つてゐる箱が百二十五、山のやうな寶石、ム！ル人の奴隸が、男女や子供等を合しまして八十人あつたとの事でもあります。然るに此のほかにも未だ彼はセヴィールの町の何處かに是以上の莫大な財寶を隠してゐるといふ評判が立ちました。そこで國王はレヴィをセヴィールの町へ連れて行つて其土地に監禁しておくやうにと命じました。そしてセヴィールの町に隠してある財寶の所在を白狀しろと頻りに攻め立てました。しかし彼はどんなにひどく攻められても其れを白狀しませんでした。そして遂にそのために悶死するに至るまでも其の財寶の隠してある場所を露ほども仄めかさなかつたのです。彼もまた決して普通凡庸の蓄財家ではなかつたらしいのです。そしてセヴィールの町に隠されたといふ彼の所有品は今に至るまで未だ誰にも發見されません。

しかるにトレドの方の彼の邸宅からは新たに財寶が發見されました。マルチン・ヤーネスといふ人がレヴィの邸宅の地下室を發掘してみた。ところが其處には人の脊の高さほどもある金銀の山が三つもあつたといふことです。

何しろレヴィの生前蓄へてゐた財寶の數は驚くほど夥しかつたのです。それでありましてから國王が彼から取上げた財寶の山を見たときにその數が餘りに多いのに驚いて嘆息して言ふには「もしもドン・シムエル・レヴィが此の分捕品の三分の一を俺に渡したなら、俺は彼に手を觸れなかつたのに」と。

併し人の運命ほど分らぬものはありません。この事があつてから九年後に、國王ドン・ペドロは玉座から追はれ義理の兄弟ドン・エンリクのために敢無き最後を遂けてしまつたのです。

このやうな恐ろしい悲劇の思ひ出を書いて、ベレズ・デ・アヤラといふ人が斯う言ふて居ります。「富は霧であり露であるに過ぎない。——誇と榮譽と空しき街耀——賢き人は其れを忌み且つ笑ふ。——吾々の生は川の水の如く流れ行くのである。」

今まで述べたやうな悲劇の舞臺であつたところのレヴィの舊邸に其後ドン・エンリク・デ・アラゴンといふ人が住むことになりました。この人は王室出の有名な文學者で且つ當時の物識として知られてゐました。そして巫術を熱心に研究してゐました。傳説や物語の中ではヴィレーナ侯爵となつて居ります。この侯爵は巫術使ひであつたから、一般の民衆は會て猶太人が財寶や商品を仕舞つておいた洞窟に侯爵の妖術や錬金術の仕事場があるにちがひないと想像して居りました。そして侯爵に關して色々の傳説が生まれました。即ち猶太人とペドロ一世との傳説に更に新しい傳説が加はつたのです。

十六世紀の頃には未だ「ヴィレーナの侯爵の本邸」と呼ばれてゐた宮殿の遺構が幾らか存在してゐたさうであります。そして此の様に二度迄も傳説や物語によつて彩られた建物は千五百八十五年頃には其母屋がドミニコス・テオトコプロスの住宅となつたのであります。ドミニコス・テオトコプロスといふのは即ちエル・グレコのことであります。彼は此屋敷である有名な傑作「オルガズ伯爵の埋葬」を描きました。そして千六百十四年の四月七日に矢張りこの屋敷で其の光榮ある藝術家としての生涯の最後の呼吸を引取つたのであります。

ます。

二十世紀には是等の歴史的な建物は非常に荒廢してゐて近寄るのも危険な程でありました。しかし此のやうな紀念すべき建築物を失ふといふことは悲しむべきことであるといふので、ラ・ヴェガ・インクランの侯爵が私財を投じて修理を加へました。この侯爵は趣味の豊かな人として、且つ藝術の愛好家として名高い貴族であります。彼は此の舊邸を買ひ取つて、出來得る限りエル・グレコの住んでゐた當時の面影を留めるやうに手を加へました。そしてそれがうまく成功したのであります。かくしてエル・グレコの邸宅が永久に其の豊かな趣味の痕を失はずに傳はることになつたのであります。

サント・トメの教會堂を後にして、峻しい裏道を辿るといふと、タークス樹の繁つてゐる廣場に來ます。遙かに下の方に詩でも歌ふてゐるやうな川の水流れる音が聞えます。音は岩だらけの傾斜地の間に消えてしまひます。

右手には、不規則な緑や色々の形を刻んだ杭が立つてゐます。此の杭のところから下へかけて見慣れない美しい庭が走つてゐます。この庭に比較すべきものは他の何處にもあり

ません。恰もトレドに似た町が他の何處にも見いだされないと同様です。それほどまでに此の庭は奇妙な眺めです。

此の庭園は、シムエル・レヴィの邸宅の敷地の大部分を占めて居ります。不思議な物語や空想的な傳説が、どんなに此處に群がり集つてゐることせう。

此處は極端に簡単な煉瓦の壁で圍まれて居ります。此處を過ぎて蜿蜒たる路を登ると上部の庭園に行きます。庭の路の兩側には蔦で被はれた壁があつたり、花の群がり咲く畑があつたり、古い建物から落ちて其まゝ地上に横はつてゐる美しい建築裝飾の残片があつたりしていかにも哀傷の感をそゝります。

此の不思議で美しい、單純な庭に曲りくねつて付いてゐる路の角に洞窟の入口があります。是はレヴィの邸宅の穹窿を形づくつたものです。是等の穹窿の最初のものゝ上に、エル・グレコの家(第百六十三圖)が立つてゐるのです。數段の煉瓦の段階を上ると小さな門があります。門の後ろにはトレドで普通見かけるやうな中庭があります。形は矩形で、所々に石で圍んで龜の中に入れた小さな井戸があります。

第百六十
三圖

第百六十
四圖

西班牙・亞刺比亞式の幾つかの模様の簡単な瓶(第百六十四圖)からは蔦の枝が生え上つてゐます。そしてそれが壁の色の白さを緩和してゐます。中庭はルネッサンスの格子意匠とエナメル塗タイルの腰羽目とで粧飾されてゐます。腰羽目は此の國の教徒の手で漆喰細工で以てゴシック式によつて巧みに作られたものです。單純な彫刻を施された柱盤の上に立つ溝彫のある丈夫な柱が並んで、上に木造のギヤレリを支へて居ります。あらゆるものを翫ふて天空は深い青色を湛えて輝いてゐます。

入口に面してゐる室は禮拜堂に變へられました。こゝには十五世紀のムール・アングルジア式のモザイクの豊麗な祭壇やゴシックの卓があります。控室は中庭に向いてゐます。その壁にはムリロの肖像畫や、ヴェラスケスの養子であり弟子であるところのマゾーの描いた幾つかの戦争畫がかゝつてゐます。

此の室の他の戸口からは臺所に行かれます。臺所の壁はエナメル塗のタイルで筋どられてゐます。こゝの爐棚(第百六十五圖)は有名なもので、その棚には古い美しい西班牙の陶器が一杯に乗つてゐるのです。

第百六十
五圖

擬古典式の柱の立つ広いテラスから直ちに庭園です。蔦のからまる柱や建物の美しい一角が二つの小さな泉の水に映つてゐます。室内にはエル・グレコ其他の大家の筆になる畫が澤山かゝつてゐます。

園藝野話

クリスマスと正月の植物

第六十六圖

クリスマスの室内装飾に用ゐられる植物は柘ヒトシギと槲寄生ヤドリギ木とである。柘の光澤のいゝ常緑の葉と眞赤な實とは此の祭日を飾るにふさはしい。第六十六圖の寫眞は亞米利加原産の柘で、歐羅巴原産のものに酷似してゐる。日本の山野にも柘が自生し、籬などに用ゐられる事は人の知る通りである。ヤドリギは榆や赤楊の梢に寄生する常緑の小灌木で、我國でも冬枯れの山野の樹梢に屢々見受ける。

草花でクリスマスの卓上装飾となるものは、フリージアであらう。これは蘭の様な葉の間に恰も鐵砲白合を小さくした様な筒形の純白(或は帶黄色または紅色)の花を群がり咲かせて芳香を漂はせる。それで香雪蘭といふ譯名を持つてゐるが、蘭科ではなく鳶尾科の植物である。原産地は亞弗利加の喜望峰である。九、十月頃に球根を植えて翌年の四月に花

を見るのが普通であるが八月頃に鉢に植えて温室に入れて置けば十二月下旬には咲く。鉢は四寸鉢に大球八個位の割に植込む。但し球の大きさを揃へないと長短不揃のものが出来て醜い。排水が悪いと球が腐るから土は砂交りのものがよい。

芽の地上に出るまでは暗所に置いた方がよい。水は乾き加減にやり、蕾が現はれてから一回、花が済んでから一回、薄い肥料を與へる。花が済んで葉が黄色になつたら次第に給水の分量を減らし、葉が全く枯れ乾いてしまつたら、球根を取り出して緑の下の如き乾いた冷いた所に次ぎの植込期まで貯へる。西洋には聖誕祭薔薇(クリスマスローズ)といふ毛茛科の草花がある。クリスマスの頃に薔薇の様な花を開く。第六十六圖の花がそれである。栽培が容易で木の根元にも、籬や壁の北側にもよく育ち、根は薬用にもなる。次ぎに初春の座敷を飾る植物を挙げれば――

福壽草——これは種子を蒔いても五六年経たなければ花をつけないから苗で植える方がよい。縁日などで此の花を賣つてゐるが根の一部が亂暴に切り取られてゐる場合が多いから翌年は花をつけない事が多い。毎年開花を楽しみたい人は未だ盆土に上げないものを

買つてくるがよい。そして無理に平鉢に植えるのを止めて、根に對して充分に餘裕のある孫八鉢の如きものに植えるがよい。いくら體裁がよくても平鉢だと根と切り縮めなければ植えられないから花のためにはよくない。肥料は土さへ肥えてゐるなら施さずともよい。此の花は日本では元旦の慶祝を意味してゐるが、歐洲では反對に悲哀を意味するものとされてゐる。

葉牡丹——これは花ではなく觀賞用のキャベツだが初春の床の間に飾ると草花とはまた異つた趣がある。これも種子を蒔くと素人には厄介だから苗を求めて植えた方がよい。十月頃、日當りのよい土地二尺幅に畝を作り、一尺五寸位の間隔に苗を植へ三週間乃至二週間に一度肥料をやり、十一月中旬からは霜除けをする。さうすると正月には大きくなるから切り花にするなり鉢植にするなりして座敷に飾るのである。

○福壽草の異名——、元旦草、元旦菊、福神草、朔日草、富士菊、滿作草。

○福壽草の漢名——側金盞花、獻歸菊、雪蓮、報春花。

臘梅と雛菊

臘梅

臘梅はまた蠟梅とも書く、臘月(陰曆十二月)に開いて其の香が梅のやうであるから臘梅と呼ばれるのであると説く人もあるが、一方には、その花の色澤が蜜蠟に似てゐるので臘梅と言はれるのだと説く人もある。斷腸亭主人の隨筆「初硯」に、
蠟梅はそが枯瘦の枝振り飽くまで支那めきたる枝頭に、蠟の如く黄き色したる花をつくるなり。

といふ句があるが、最もよくこの植物の特色を形容してゐて面白い。

この花は陽曆では正月の末頃に咲き初めて二月が満開、そして三月までは咲いてゐるのだが、その満開期の二月は春未だ寒く庭園もどことなく蕭殺としてゐるのでその庭の一隅

に、未だ一枚の葉も見えない枯瘦の枝に小さな花を咲かせてゐるこの植物の姿は、なんとなく浮世離れた支那の老詩人を想はせるのである。この植物は蠟梅科に属する灌木であるが高さが一丈に達するものもある。

花には萼が澤山ついてゐて、萼と花との區別がはつきりしない。全體は恰も睡蓮の花を直徑五六分に縮小したやうな形をしてゐる。色は蜜蠟の如く、日の光を浴びると琥珀のやうに美しい。面白いことには花は皆な下か或は横を向いて開く。

此の花を繁殖させるには、成熟した實を直ちに蒔き、その芽が二三寸にのびたときそれを他の箇所に移植し、更にそれが充分に成長したのを見て、初めて庭なり鉢なりに植ゑつけるのである、但し排水をよくしてやることを忘れてはならない、また夏期に、枝を折れないやうに垂れ下げ、小しばかり傷をつけ、その部分を地中に埋めて何かで押へて置き、そこに根が生じた時に分割しても繁殖する。

蠟梅も咲いて落附く花屋かな

浮木

雛菊

雛菊とは英語のデイジーで、葉の間から二三寸の花梗を突き出して紅或は白の豆菊のやうな花をつける小さな宿根草である、日本の原産ではなく、古く英國から輸入されたものなさうだが、どんな土地でも繁殖力が強いので、今では珍らしいものではなくなつてゐる、しかし歐米殊に英國では此の花を非常に愛し、「無邪氣」を意味する花言葉を與へてゐる、佛蘭西近代の詩人グルモンは、

赤き蕾よ、血に滲みたる雛菊の蕾よ

汝こそは清き花繻なまひもにしてまた

處女の乳房なれ

と歌つてゐるが、全く紅い雛菊は無邪氣な乙女である、英國では美しい可愛いものを此の花に譬へてゐる、例へば、可愛い娘を見ると、「あのお嬢さんはデイジーだ」と言ふ、元來デイジーといふ名は「日の眼」を意味する古語から來た名稱で、この花の容姿がいかに麗かに晴れた日の眼といふ感じを古代の英國人に與へたものと見える。歐羅巴には此の花が到る處の野や牧場は言ふに及ばず随分高い山の上にも咲いてゐるといふ事である

二月頃から咲き初めて随分遅くまで花をつけてゐるためか、英國では「時しらす」とも呼んでゐる、日本では延命菊といふ別名を與へてゐるが、これも開花期の長いことを意味するらしい。

雛菊の栽培は極めて容易で、特別に肥料を施す必要もない位だが、やるとすれば油滓が一番よい。繁殖法は秋の末に根分けをすればそれでよい。かく栽培が容易で且つ小さくて無邪氣で可憐な花だから、子供の園藝には最も適してゐる。また花壇の縁飾りとして植ゑるか、或は門から玄關に至る間の細い石敷きの路の兩側に植ゑるかするのもよい。言ひ忘れたが、此の花は菊科に屬してゐる。

二月の園藝

花壇の仕事

寒中に花壇の土を唐鍬のやうなもので以て何回も何回も深く切り返しますといふと害虫を除くに非常に効果があります。それは土が耕されるために土が寒氣に曝されるので土中の害虫が凍死するからです。これは正月から實行するのがよいのですけれども、正月は未だ何となく花壇の方に氣が向かないといふ人も多いでせうから、さういふ人達は二月早々着手するがよいのです。二月から初めても決して遅くはありません。否、たとへ正月から着手してゐる人でも二月になつてからでも尙續行する方がよいのです。草花を培養する土も本當は一月のうちに作るのがよいのですけれども是も正月氣分で怠つた人は二月早々初めなさい。その方法はどうかと申せば、先づ花壇の土の下に推肥を敷き、その土を唐鍬かなんかで切り返して暫らく寒氣に曝しておくのです。一月にこれを實行した人ならば、二月になつてから、更にこの土の上に下肥と過磷酸石灰とを混合した肥料を普ねく撒布し、翌日それを切り返し、それから土をよく整理します。かうすれば何時でも種子を下ろすことが出来ます。

申し忘れましたが、害虫を驅除するには一月二月は最もよい時季で、それには前述のや

うに深く土を切り返すことを實行すると共に、若し鶏を飼つてある家ならば、さうした土の上へ鶏を放つて蟲を捕へさせるがよい、また石油乳劑、ボルドー液などを撒布しても蟲を殺すことが出来ます。それから、雜草や落葉などを掻き集めて、それを焼いて病土の消毒を行はなければなりません。花壇はこれで大體よしとして、こんどは鉢植物の心配をしなければなりません。鉢植物の培養土も實は一月のうちに作つておく方がよいのです。この培養土を作るには腐葉土に畑土二三分と砂二三分とを混じ、更にそれに下肥を注ぎ、油糟を少し交ぜるのです。このやうに種々のものを混交したものを幾度も切り返して土と肥料とをよく混融させなければなりません。切り返したまゝ雨のかゝらぬ所に置いて夜氣に當てゝ凍らせ、翌日これを掻き集め、再び切り返して其の夜もそのまゝ凍らせるといふやうにすれば上等な培養土が得られます。この培養土は成るべく日當りのよい風通しのよい所に置くやうにしたいものです。

樹木や宿根草には一二月のうちに一二回肥料を與へなければなりません。これも此の月の園藝の役目の一つです。肥料は、よく腐つた下肥に過磷酸石灰を少し混じたものを水で

薄めて施すのです、大きな木ならば根元を堀つて施さなければなりません、小さな木や草ならば地面にかけたゞけで結構です。それから二月の中旬になつたならば秋植の球根や宿根草などを冬の寒い間霜を除けるために保護してゐました藁をば忘れずに取除けてやつて、春の近づいた温い光を久しぶりで浴びせてやらなければなりません。

三色堇の話

東京などでは正月のお座敷の裝飾用として年の暮に大道で第六十七圖に見るやうな三色堇を福壽草などと一緒に賣つてゐるのを見かけますが、しかし三色堇の見頃なのは矢張り二月の末から三月一杯でせう、三色堇は花が美しい蝶々の飛んでゐる姿に似てゐるので遊蝶花或は胡蝶堇とも呼ばれてゐます。また花が一寸人の顔を聯想させる點もあるので人面草といふ名も持つてゐます。英語ではパンジーで、花言葉は「我を思へ」です。私の事を忘れずに思つて下さいといふ愛の心を表はすために西洋では今でも離れてゐる愛人同志が此の花を贈り合ふさうです。それで此の花は相手を忘れぬ愛のしるしを表はすものとして「安心の花」とも呼ばれるさうです。

三色堇は堇菜科の多年草で英吉利の山野には自生してゐるさうです。勿論自生のものは花は極く小さいが、園藝種のものには随分大きな花を咲くのがあります。色彩は濃艶ですが姿は可憐な花です。この草は多年生草本ですが、暑熱と乾燥とを非常に嫌ひますから、夏になるとスツカリ元氣が無くなつて醜く弱ります。それで夏になつたら思ひ切つて捨て、新しく播種した方が美しい花を見られます。種子を含んでゐる蒴は未熟の間は頸垂れてゐますが、生熟すれば眞直になりますから、そのとき種子を採るのです。餘り生熟し過ぎると蒴は獨りで裂けて種子が飛散して見えなくなります。さて種子を蒔くのは何時でもよいのですが、普通には春蒔いて六月頃から花を見るのと秋蒔いて二三月頃から花を見るのとあります。年の暮に賣つてゐるのは八月中旬に蒔いたものです。申し忘れましたが種子を含んでゐる蒴を摘み採りましたならば、それを成るべく薄い紙の袋に入れて日の當る所へ出して置けば、蒴は袋のなかで獨りで裂けて種子を吐き出します。かうすれば蒴の裂ける時に種子が四方へ飛散してしまふ心配がありません。蒔いた種子が発芽したなら覆いを取除けて日に當てます。芽が本葉を數葉出したならば株の間を三寸位隔て、植替へて

やり、それが更に成長した時に於て目的の場所に植えるのです。

三色堇に就いて次ぎのやうなことが云ひ傳へられてゐます、——或日一人の天使愛の使命を帯びて地に降りけるが道すがら車前草の葉の下に咲き居ける三色堇を見出して言へり「汝れひとり住まはんはいと惜しきわざなれ我れ呼吸をかけて我が面影を汝れにうつさん程に廣く世界の國々に行きて人々の心に高き理想と潔き愛とを傳へよ」と。天使は花と接吻しければ其面影今も花の上に残れり。

草花の種子まき

三月になると、種子をまくべきもの、根分をすべきもの、移植すべきものが澤山あります。

苗床の用意 草花の種子を床蒔にするならば先づ苗床を作らなければなりません。乙

れには日當りのよい庭の一隅を割して地上から大低五六寸の高さに土を盛りあげて平らな土壇をつくります。その土はよく砕いたり篩にかけたりして柔かな粉末としなければいけません。土を地上より高く盛りあげるのは排水をよくするためです。また更に排水をよくしようとならば、苗床の下に藁とかソグとかを三四寸の厚さに敷くのが有効です。しかし強い雨が降ると折角蒔いた種子が苗床の外に流れ落ちる心配がありますから、苗床の周囲には炭俵のやうなものでもめぐらしておくがよいでせう。

苗箱の用意

草花の種子は苗床に蒔いてもよいのですが、苗箱に蒔くことも出来ます。苗箱を作ることは何も面倒なことではありません。第六十八圖の寫真に見る通り、密柑箱なりビールの空箱なりを鋸で五六寸の高さのものに切るのです。そしてその底には四五寸の穴をあけます、この穴は排水のためのものです。さてこれらの穴を小石なり朝顔鉢の破片なりで蔽ふて、それから箱一杯に土を盛るのです、これで苗箱が出来上つたのです。土は苗床の場合と同じやうに細かなものでなければいけません。また箱でなくて他のものを用ゐても構いません。たとへば廢物の鍋とか摺鉢とかです。但しその底に穴をあけるこ

とを忘れてはいけません。苗箱は持ち運びが出来ますからこの點で苗床よりは便利です。たとへば雨の強く降るときには軒の下に取り入れることが出来ますし、また日當りのよいところを選んで持ち運びすることも出来ます。都會地のやうな庭の廣からぬ場所では苗床を日當りのよい所に設け得ないこともあるでせうから尙更苗箱の必要を感じるでせう。且つ貴重な種子ならば箱に蒔かなければ不安心でせう。大切な朝顔などは鉢一個に種子一粒を蒔くほどです。

蒔き方

苗床なり苗箱なりが出来上つたならば愈々播種に取りかゝるのです。種子は成るべく疎らに蒔いた方が成績がよいやうです。蒔いた種子の上を被ふ土の厚さはその種子の大きさの約四倍の厚さにするといふのが規則ですけれども、小さな細かい種子なれば、かゝつたかかゝらぬか分らぬ程度に土を被ふのがよいやうです。

蒔いてから

種子を蒔き終つたならばその上に藁を薄くかけるとか、新聞紙で蔽ふとかして、日光の直射を防がなければなりません。私が先年苗床に新聞紙をかけて置きましたら、隣家の猫がそれを何と思つたのか、新聞紙の上に乗つてふざけまわつて滅茶々に

した事があります。こんな例もないとは云へませんから、周囲に縄でも張つて置く必要があるでせう。次ぎに灌水のことですが、あまり水をやり過ぎると種子を腐らせる心配がありますから、土の乾燥せぬ程度に灌水すれば澤山でせう。その水は成るべく汲み置きのものになさい。米磨ぎ水はよくありません。清水に限ります。かうして温度と湿度とに注意してゐるうちにやがて發芽します。黒い土の表面にいつの間にか清新な青い芽の群れが恰も柔かい針でも植ゑならべたやうに發生してゐるのを見いだしたときの驚きと喜びとは實に筆紙に盡せません。芽が出ましたなら、朝や夕景近くには上を被ふてゐる新聞紙または藁を取り除いて日の光にあてゝやります。しかし急に強い日光にあてるのはよくありませんから、當分日盛りには蔽ふて置く必要があります。そして芽が双葉をつけるほどになつたなら、早速間引き^{まび}を行ひます。即ち苗が密生してゐると生育を妨げますから適當の數だけの苗を残して他は引き抜くのです、その引き抜いた苗は他の箇所に植えて置くがよいでせう。間引きには先づ強さうな苗を残して、弱さうな苗を引き抜くやうにするのです。かうして置いて移植の時期を待つのですが、移植は來月以來の仕事に屬します。

三月に蒔く草花

春の彼岸の頃から種子を蒔き初める草花の種類は澤山ありますがその中の主なるものを左に挙げます。

紅色さるひあ、錦球草、矢車草、孔雀草、れせだ、へりあんとうす、のうぜんばれん金蓮花、フスマリ向日葵、芍薬、金鶏草、千日紅、花菱草、だんごあひ錦葵、鳳仙花、鋸草、飛燕草、こすもす、登り藤、夕顔、除蟲菊、石竹、翠菊、ろべりあ、松葉牡丹等。

三月に根分するもの

根分をすることも草花を繁殖させる一つの方法です、即ち宿

根草の根を掘り起し、小刀か鋏で切つて幾つかの株に分け、それごと移植する方法です、此の月に根分すべき草花の主なるものを數種挙げませう。

櫻草、いちはち、小櫻草、檜扇、紫陽花、大菊、だりあ、其他。

菜園の三月

裏の菜園も此の月から急に活氣立つてきます。この月に種子を下るすものには高苺、茄子、牛蒡、甘藍、南瓜、葱、夏大根などがありますが、こゝでは蕃茄——英語のトマト——の栽培を話ませう。

トマトを生食すれば消化を良好にし且つ肝臓の病氣によいさうです。眞赤な實のなつた姿が美しいので鉢に植ゑて眺める人さへあります。元來は南亞米利加の秘露の原産なさうですから熱帯の植物なんですが寒い土地にも育ちます。種子を蒔くのは三月ですが、もと／＼熱い國の植物ですから日本のやうな國では温床に蒔かなければなりません、さうでないといふと忽ち霜害にかゝるのです。芽が出てからもそのまゝ温床の中で育て、適當の時に一度假植をします、それも温床の中でやるのです、そして四月下旬から五月上旬の頃に初めて苗

を畑に移植するのです。畑には畝を二三尺をへだて、作りそれに苗を一尺乃至二尺へだて、一本づゝ植ゑるのです。トマトは大へん水を要求するものですから常に充分に水を與へなければいけません。それから苗の傍には支柱を立て、それに緩く結びつけてやります。さうすると七月頃からはあの眞赤な水々しい果實のエクゾーテックな味を味ふことが出来るのです。

五月の園藝

球根の植込

五月に植込む球根には、ダリアやカンナなどがあります。ダリアは御承知の通り菊科の宿根草で、日本では天竺牡丹と呼んでゐます。原産地は墨西哥なさうです。ダリアの球根を植込むには、先づ昨年の球根を取り出し、數球連結してゐるのを一つづつ引き離さなけ

ればなりません。此の場合注意しなければならないのは、球根の上端のクラウンと呼ぶ箇所を損じないやうにすることです。このクラウンは芽を出すところですから最も大切に取扱はなければならぬのです。さて球の連結を引き離すには、刃物を用ゐない方が安全です、そして手で球の下端を持つてソロ／＼と引き裂くのです。これを鉢に植ゑるには、直径一尺内外の鉢の表面から一寸ばかり低く球を置くやうにしなければいけません。あまり浅くてもいけません、あんまり深くてもいけません。花壇に植ゑつける場合には、日當りのよい場所を選び、三尺乃至四尺をへだて、植ゑるのです。鉢に入れる土は球の腐敗を防ぐために砂交りの肥土を用ゐなければなりません。肥料は人糞が一番よいさうです。人糞を稀薄にして、植付けて發芽してから一回、愈々蕾の見え初めた時に一回施すのです。しかし人糞を取扱ふのを嫌ふ婦人は、油粕または馬糞を用ゐてもよいのです。但し、油粕などは充分に腐敗させてから用ゐるやうにしなければいけません。カンナの球根の植込も矢張りダリヤの場合と同じ要領です。

朝顔の種子まき

朝顔(牽牛花)は四月早々種子を蒔いてもよいのですが普通には五月初旬の八十八夜に蒔くことになつてゐます。種子は鉢に蒔いてもよいし、苗床を設けてそれに蒔いてもよいのです。又二百五十二頁の園藝欄で説明しておいたやうな苗箱に蒔いてもよいでせう。いづれにしても、豫め何かで横縦に幾つかに區劃して、その區劃面の碁盤目の一つに種子一粒づゝ蒔くやうにする必要があります。さうしないと、どれが何んといふ名の朝顔だつたか分らなくなつてしまふおそれがあります。大切な種子なれば鉢一個に種子一粒を蒔くやうにするのが一番安全です。蒔いてから十日ほどしますと芽を出します。その芽が双葉から芯葉を出さうとするとき、他の適宜の場所に移植するのです。其ときあまり根を固めないやうにしなければいけません。そして愈々根が落着いた頃から、油粕、魚腸の汁、溝渠の汚水などを與へるのです。日中は、葉が萎れでもかまひませんから、充分に日光にあてます、そして日の照つてゐる最中に根の周圍に日向水ひなたみづをそゞと効果があります。御承知の通り、朝顔には非常に多くの種類があります。花の形によつて區別した種類には、丸咲、八重咲、獅子咲、風輪咲、孔雀咲、牡丹咲、桔梗咲、車咲、捻梅咲、縮咲、爪折咲などい

ろくあります。また葉の形によつて區別した種類には、柏葉、芙蓉葉、南天葉、蜻蛉葉、渦葉、蔦葉、八手葉、笹葉、柳葉などあります。花の絞りの種類に従つて名づけられたものには、半月絞、隅田絞、鳴海絞、花笠絞、霰絞、微塵絞、村雲絞、刷毛目絞などがあります。このやうな精練された朝顔の花を立派なお座敷のお縁側の上で觀賞するもさることながら、名もない普通の朝顔が紅や紫や白の花を農家の籬などに一面に鮮やかに賑やかに咲かしてゐる光景もまた捨てがたい美しい野趣です。

ひなげしの花

雛罌粟、麗春花、美人草、虞美人草、いづれも同じ草に名づけられた名前です。五月の庭を飾る花の中でも、最も優美なものです。莖も花も嫋々として、晴れ渡つた青空の下に群がり咲いた眺めは、實際特殊なものです。この花には、いかにも此の花の嫋々たる姿にふさはしい傳説があります。それは支那の物語で、川上瀧彌氏の「はな」といふ本に次ぎのやうに出て居ります。

「唐土褒斜谷といふ處に虞美人草と云ふありて、形は鷄冠花の如く、葉は兩々あひむか

ひて生ず、此草につけて唐人の作れる舊き曲あり、其詞に帳中草々として軍の情變ず、月の下に旌旗亂る、衣を攪り枕を推やりて離情を愴む、遠の風吹下す楚歌の聲正に三更烏雞上らんと欲す、重ねてあひ顧みる艶態の花といへり。そのかみ漢楚の戦に項羽遂に打負て垓下といふ所に攻め寄せられ、今は叶ふべくもあらざりければ、項羽の妻、虞美人に名殘を惜みて別れの限りを悲みしが、妻は終にみづから劍に伏して死しけり。項羽も烏江といへる所にて、自から首刎て死しければ、終には漢の高祖の天下となりぬ。然るに虞美人の屍を埋みし塚の上よりあやしき草の生出て、うつくしき花の咲しかば、時の人あはれがりて虞美人草と名づく、此草に向ひて舊曲を歌ひ拍子をとれば、拍子に合わせて草の葉、すなはち能く舞ふと云ふ、風流の草なりと賈氏が談録といへる書に見ゆ。」

なんといふ優怨な物語でせう。花の色は紅、白、紫などさまざまで、一重もあれば八重もあります。種子を蒔くのは秋の彼岸の頃で、用土は眞土と赤土とを半々位に混じたものがよいとされてゐます。勿論冬季の間は充分に霜除の用意をしなければなりません。肥料は充分に腐つた油粕が最もよいさうです。しかし七月頃から八月にかけて花を見るつもり

なら、其の年の四月頃に種子を蒔いてもよいのです。いつ蒔くにしても此の草は移植を非常に嫌ひますから、初めから花を咲かせる場所を定めておいて其處に種子を下さなければなりません。そして芽が生えたならば、間引きをして、苗と苗との間の距離を適宜に明け、るやうにします。

ひまわり物語

夏の庭に豪華な花を大きく開いてゐる日廻(ひまわり)は菊科に屬してゐます。日車(ひぐるま)とも、日輪草(にちりんそう)とも、また向日葵(ひうがあふひ)とも呼ばれて居ります。いづれもこの花が常に點頭して日脚の移る方に向ふが故に名づけられた名稱です。丈菊と書いてひまわりと讀ませる場合もあります。これは丈の高い菊の種類といふ意味でせう。英語ではサンフラワーと申します。太陽の花といふ意味です。しかしこの名前は花

が日脚の移る方に向ふが故に生じたものか、それとも花の形が金輪で恰も太陽のやうであるから生じたものか、それは私共には分りません。

ひまわりの花が日脚の移る方に向ふことに就いて、希臘神話が面白い物語を傳へて居ります。むかしクリチアといふ乙女が居りました。この乙女は日の神アポローと深い戀仲となつて數年ほど睦ましい同棲さへしたほどでした。ところが或る日キューピットが悪戯心から鉛の矢でアポローの胸を射ましたので、それ以來アポローはクリチアに對して非常に冷淡になつて遂に彼女を捨て、しまひました。クリチアは餘りのことに泣き悲んで家を飛び出しました、そして山の岩陰に泣き伏したり、野の草の上に熱い涙を流したりして、ひたすらに曾ての戀人を慕ふのでした。彼女は餘りに泣き悲しんだので、遂にその身は野の草の間に消え失せて、そこに一本の丈高い草が生じました。その草にやがて大きな黄色い花が咲き、その花は太陽の動く方向を追ふて頭を廻すのでした。これはいふまでもなく日の神アポローを慕ふクリチアの化して草となつたので、この草こそひまわりであるといふことです。

ひまわりは高さ五六尺から一丈餘にも延び、従つて葉も花も大きい。紫泉といふ俳人が「ひまわりや雀かくるゝ花のかげ」と詠みましたが、全く小鳥の一羽位はゆつくり身を隠すことの出来得るやうな大きな花を開きますから見事です。その大きな金輪の花が夏の明るい輝かしい日の光を浴びて威勢よく咲いてゐる姿は、全く豪華な感じを與へます。

ひまわりは一年草ですから種子によつて蕃殖させなければなりません。種子は外皮が硬いから一晩水に浸けておいてから播いた方がよいのです。種子は春の彼岸の頃床蒔とし發芽して二三寸になつたなら花壇其他の場所に移して定植させます。丈夫な草ですから特に肥料を施す必要もないほどですが、もしやるとすれば魚腸の汁や糠などがよいでせう。花の咲くのは七月から八月にかけてですが、丈の高いため、とかく風でも少し強く吹くと根こそぎ倒れますから支へ棒を與へておく必要があります。

ひまわりは丈の高い草ですから植える場所もそれに相應した所でなければなりません。即ち、花壇ならば後列の方に植えならべて前方の比較的低い草花の背景とするかさもなくば、場所の中心に植えて、その周圍に他の比較的低い草花をならべるかするのがよいでせ

う。しかしひまわりの直ぐ下に他の低い草花を植えると、大きな葉の陰になつて發育を害されますから適宜の距離におかなければなりません。

ひまわりにも色々種類がありますが普通のひまわりは合衆國西部の原産で、此の國では到る處に裝飾として或は種子を採る目的で栽培されてゐます。種子からは燈油が採れます。そして種子は家禽の食料ともなりまた馬の嘔吐をとめる薬としても効能があるさうです。花言葉の上ではひまわりは「尊大」、「高慢」などを意味します。

ヒヤシンスの水栽培法

ヒヤシンスは和名な風信草ふうしんそうと呼ぶ球根植物です。此の花の由來には優艶な物語があります。日の神アポローはスパルタ王宮の美少年ヒヤシンスと相愛の間柄となりました。それを風神ゼーファが嫉み、或日兩人が仲よく環投げの遊びをしてゐる所に忍び寄り突然アポ

ロの投じた環に疾風を吹きかけたので環はヒヤシンスの類に當つて無残にも彼の生命を取りました。魂失きヒヤシンスの屍のあとから生え出て咲いたのが優しく美しいこの風信草だといふ事です。

第一百七十
一圖

さて此の草の水栽培は十月から十一月までの間に取りかゝらなければなりません。瓶は寫真に見るやうに下部に水を入れ上部に球根を置くやうに出来てゐるのを植木屋で賣つております。それで瓶の下部に水を入れその水が球の尻に着くか着かぬ位にしておきます。水の底には木炭を少しばかり沈めて水の腐敗を防ぎます。水は三日に一度乃至六日に一度は取替へてやらなければいけません。それから水の發散と塵が水に入るのを防ぐために球根の周圍に脱脂綿を詰めて置かなければなりません。かうして暗い所に置いて根の出るのを待ちます。球の頂に少し芽が出て來たなら、少しづつ軟かな日光に當てるやうにします。根も延び芽も大きくなり花が咲くやうになつても餘り強い日光には當てない方がよいのです。

暗い所に置く代りに、第一百七十一圖の寫真に見るやうな装置をしてもよいのです。即ち

(一)の如く球の上にボール紙か何かの帽子をかぶせ、更に(二)の如く瓶の全體を被ふ筒をかぶせる、(三)の如く根が少々延び芽も出るやうになつたなら筒を取つて軟かな日光に當てる。さうすると、(四)のやうに蕾を持つやうになる、此の時には根は瓶に届くほど長くなつてゐる。遂に(五)のやうに直きに花咲くばかりに生長するのです。花が濟んだなら成るべく根を折らないやうに抜き出して土に植え、葉が枯れたなら掘出して貯へるので、尙今年咲かせた球根は翌年は休ませるやうにした方がよいのです。

住宅論三つ

内田魯庵氏の床の間廢止論

文壇の老先輩として尊敬されてゐる内田魯庵氏は昨年末から讀賣新聞にバクダンと題する面白い隨筆を連載して居られます。そのうちの一項目に「床の間廢止論」といふのがありました。これは住宅に直接關係のある問題であるばかりでなく、私共の日常生活に種々交渉のある問題でありますからこゝで魯庵氏の御意見の要領をお紹介すると共に記者の愚考をも申添へることにいたしました。

魯庵氏は二つの理由から床の間廢止論を唱へるのであると言明して居られます。即ち一は住宅改造の爲めに、他は日本畫の進歩の爲めにです。

魯庵氏は言ふて居られます、——「床の間といふのは西洋に無いのは勿論だが支那にも無い。日本特有の書院建築の重要な室内構造である。單調な平面的な色彩に貧しい日本

室では床の間のあるのが切めてもの裝飾だから、國粹本位の論客は廢止どころか益々其領分を廣げて床違ひ棚の構造を愈々複雑にするを欲するだらう」。

しからば此の日本特有の床の間を住宅問題の上から見て何故に廢止しなければならぬか魯庵氏は是に對しても二つの理由を擧げて居られます。

第一には建築美の意義の上から論じて居られます、——「成程、床違ひ棚の各種の様式は單調な日本室の唯一の裝飾で、之を除いたら室内構造上建築家の頭を悩ますものが殆ど無くなるだらう。が、之までの日本建築は動やもすれば部分的に指物細工的技巧を苦辛するを建築の眼目とする弊に墮してをる。床違ひ棚は指物細工的技術を發揮する爲めには絶好の場所であつて、桂の御所の著名なる棚の如きは眞に拔群の意匠を極め技術の精を盡してゐるが、本來建築の美なるものは那樣いふ部分的の細部には無いのである。」

これは極めて正當な論であります。室内の裝飾美といふものは決して所謂指物細工的技術によつて得られるものではありません。眞に藝術的感性を持つて居る人ならば其の様な職人的粉飾よりも寧ろ白紙的に何も無いのを選ぶであります。

第二には生活様式の變遷の上から論じて居られます。「床違ひ棚は東山以來の傳統的裝飾即ち『君台觀左右帳記』や『丹鶴圖譜』にあるやうな武家の調度を飾るに都合の好いやうに發達して來たので、今日之に相應する完全なる調度を具備するのは限りある名門の貴族を除いては幾何も無いであらう。如何に名幅珍器を儲ふるものと雖も五十歩百歩の變則的裝飾をする外は無い今日は、床違ひ棚の舊様式を固執する絶對的必要は既に失くなくなつて了つてゐる。況んや變則にも正則にも床違ひ棚を飾るべき何物をも持つてゐない我々の生活には床違ひ棚は全く無用の贅物である」。

これは用途の上からの觀察です。生活の變遷につれて飾るべきものを持たなくなつた以上は床の間の用途は失はれたのであるから廢止すべきであるといふ論です。しかし用途は生活の變遷につれて矢張り變遷して行つてもよいと思ひます。また變遷するのが自然だと思ひます。それ故に床の間に昔とは違つた物を飾つても一向差支へないと思ひます。此の點に於ける魯庵氏の廢止論は失禮ながら理由が薄弱だと思ひます。

しかし生活改善の手段として是非とも床の間を廢止しなければならぬ必然の理由は他に

あります。それは必然に行はなければならぬ空間の節約であります。此の事は魯庵氏も論じて居られます。「然るに日本建築を考案するものは不思議に此の無用の贅物たる床違ひ棚に俘はれてをる。昨年お茶の水に開かれた生活改善展覽會に出品された東京市の長屋の設計圖を見ると、僅四疊半一室の住家に三尺の床の間が附いてをる。中等生活者の我々でさへが床の間へ掛ける碌な幅をも持つてゐないのに、四疊半一室きりの長屋へ住ぶものが縦令三尺にもせよ床の間を必要とするか知らん。恚ういふ非常識な長屋設計圖が左もハウシングの解決らしく生活改善展覽會に出品された一事でも今日の生活改善論の眞價は判斷されるが、夫は扱置いて苟にも建築技師が此の如き非常識を敢てするは畢竟床の間を臺所の竈よりも大切とする傳統の謬想に誤れるのである。今日我々中等生活者の住ぶ家は二三十坪から五六十坪程度だが、二三十坪の家なら床の間の附いてる座敷が一室、五六十坪八九室の家となると大抵二室ある。床違ひ棚各々三尺の奥行と見ても二三十坪で半坪乃至一と坪、五六十坪で一と坪乃至二と坪は之が爲に取られるわけだ。地價も建築費も高い今日、狭い面積に廣く住はうとするに五六十坪にも足らぬ家で一と坪乃至二と坪を無用の

空積に取られるは可成な犠牲である」。

これは實際問題であつて論議の餘地がありません。いくら裝飾上必要なものでも實際の事情をまで犠牲にすることは出来ません。現に今では東京で二三十圓の家賃を要求する程度以下の貸家ならば、床の間の無いのは珍らしくありません。たとへあつたにしても最早床の間は床の間として用ゐられてゐません。いろいろの物品をのせて置く場所になつたり本箱や本棚を填充する空間に利用されたりしてゐます。即ち部屋敷の僅少な貸家などに住む者は今や床の間を實用的の意味に於て用ゐてゐるのです。疊の上にも置けないし、さりとて適當な棚も無いといふ場合には、物品を床の間に置くのです。また花瓶などを置くにも床の間が適當な場所として考へられてゐます。それは全然床の間が無くなつても不自由だらうと思ひます。それ故に一步を進めて従來の床の間を造附けの棚に改めてしまつた方がよいと思ひます。奥行一尺乃至二尺、幅二尺乃至三尺の空間を幾段かに仕切ればよいのです。或は最下の部分は地袋にしてもよいでせう。そして一番上の棚は少し高くして小さな生花位は飾つて置けるやうにするのもよいでせう。第六十一圖などは其の参考になるで

せうと思ひます。

しかし大きな邸宅を構へ廣い座敷を備へるほどの餘裕のある場合には、床の間を設けるのも違い棚を作るのも勝手である。さういふ人達は實用に縁の無い贅澤に浮身をやつしてめにも一間の床の間は贅澤過ぎると論じて居られます、——「ナゼ床の間が無ければならない乎。若し掛物を掛けたいなら壁へ掛けても濟む。支那では現に壁に掛けてをる。若し置物が飾りたいなら特に飾り棚を置いても宜し。或は書棚なり机なりの上に置いても宜し。必ず掛物の前に置かねばならない理由は無い。一體置物といふ言葉は西洋には勿論支那にも無い。國粹隨喜者は日本特殊のものゝ難有がるかも知れぬが、布袋や觀音を住はせる爲めに一間の床の間は贅澤過ぎる。若し夫れ大黒や夷須を床の間の番人とするに到つては主人の銅臭紛々たる鼻持もならぬ心地がする云々。

掛物の鑑賞を喜ぶ人達にとつては床の間の廢止は大きな苦痛であるかもしれない。しかしそれにはまた他に適當な便法があると思ひます。また日本畫の進歩のための床の間の廢止

論は住宅問題と直接の関係がないから此處では省きます。

如是閑氏の『門』論

長谷川如是閑氏は「門」といふ題で「我等」といふ雑誌に獨特の觀察の感想を書いて居られます。大層興味の深いものでありますから其の中のところどころを此處に轉載させていただきます。

初めに先づ氏は斯う言ふて居られます。

「私は門が嫌ひだ。殊に石の門が嫌ひだ。石の門のうちでも、眞白な花崗石の門が一番嫌ひで、門から内のものが皆嫌ひになる位だ。花崗石の柱に鐵の扉をつけた門が閉つてゐるのを見ると、中の主人が猛獸でもありさうな氣がする。鐵の格子をいろいろに曲りく

ねらせた扉は、野蠻人が脊中にいろいろな模様をかいて敵を威嚇しやうとしたのと同じ心理を現はしてゐる。しかも多くの場合、野蠻人の脊中の模様ほど能く時代の氣分を出したものは鮮ない。」云々。

是れを聞いて耳の痛い富豪も可成り多いだらうと思ひます。全く考へてみると今の世の中では、いくら堅固な門を設けたところで何の役にも立たないのでから、いつそのこと門といふものを全く裝飾的のものとして取扱つた方がよいかも知れません。さうなると門は其の家の主人公の趣味を萬人に向つて大びらに公表してゐる形になるわけです。主人公の趣味が「猛獸的」であれば其れにふさはしい門が建てられるといふことになるわけです。建封的貴族趣味の門は今でも華族の邸宅などに建てられてゐるやうであります。封建的城門式の門に就いて如是閑氏は斯う言ふて居られます。

「鋼鐵の金具を澤山うつた城門式の門は、千兩箱を見るやうで、如何にも掠奪氣分をよく現はしてゐる。中に居る人間が、そんなにしてまで自分を守らなければ危險を感じる位反社會的の動物なることを白狀してゐるのが、あの門だ。すべて威かめしい門は、社會を

脅威する門だ。社會に對して自分を防禦してゐるのだ。門の威かめしいほど中の人間は悪人なのだ。」云々。

此頃は郊外地などへ行くと、前庭を控へた洋館などは、低い瀟洒な門を設けて、庭の枝折戸の洋風化したやうな感じを與へますが、あれは氣持のよいものです。しかし同じく塀の内が見透しになつてゐても、或種のものゝ矢張り如是閑氏の癪にさわると見えます。

一柱を二本立てたきりの門はそれほどいやではない。けれども、その柱が悪く堂々たるものだゝ矢張り氣に喰はない。いかめしい柱を立て、扉をつけない門は、豪傑ぶつたものが態と寛容の態度を示してゐるやうで、キザだ。よく柱を二本立てたきりでそれから中の方へ立派な並樹路などを堂々と作つてあるのがある。そんなのを見ると私は柱を引つこぬいて、もつとすつと奥の方へ立て、やりたくなる。殊に「通りぬけ無用」などと書いてあるのを見ると癪に障る。碌な道路を持つてゐない日本で、自分だけそんな立派な道路を作つて、誰も通行させないで好い氣になつてゐるのは馬鹿らしい。泥田や沙漠のやうな道路にオアシスを作つたら、皆に利用させるが好い」云々。

斯うなるとウツカリ邸宅の前に芝生の美しい前庭を設けることも一種の社會的罪惡になるやうで少し氣味が悪くなつて參ります。それは兎に角として嚴めしい門を作らなければ富豪の體面に係はるといふやうな考へを捨て、多くの人に快感を與へるやうな軽い瀟洒な門をつくるやうにして貰ひたいものです。

「田舎の百姓は、金が出来ると、いきなり門を作る。先達の米や糸の高かつた時節には到る所で素適な櫛の門の新しいのを見た。中には大名の門見たやうなのがあつた。最も智惠のないものが、いきなり思ひつくのは門だ」云々。

と斯う如是閑氏も言はれてゐるやうに田舎の人々は案外に官僚崇拜的な氣持に陥りやすいやうです、そして其れが先づ門に表現されるのです。しかし新しい教育を受けた人は田舎でも餘りさういふことを喜ばないのは事實です。

「非常に社會的な集團部落には門を持つた家がない。日本や西洋の田舎へ行けば、さういふ風は至る所に見出される。所がこの部落のうちに、少し階級的の差別の出來た家が發生すると、その家は屹度門を作る。つまり門は階級的存在の象徴なのだ。即ち威赫と、防

衛との役をしてゐるのだ。」云々。

これは即ち官僚崇拜氣分の現はれであります。しかし門そのものは威赫と防禦とに起源してゐます。其事に就いては如是閑氏は斯う言ふて居られます。

「門の起源は威赫と防禦とだ。だから、平和的な建築には、今の意味の門といふものが昔から無かつた、埃及にも希臘にも羅馬にも門といふものはない。それがあるのは防衛の構造を持つ、城の意味の建築物だけだ。即ち市を一廓にしてそれに門をつけた、日本でも西洋でも、古代から城に限つて門を持つたと謂ふことが出来る。西洋では、この意味はやゝ嚴重に守られたが、日本では、城内の各戸の武士の家である限り、皆門を持つた。これは、日本の武士が屯田的であつたことの遺風だと思ふ。即ち彼れは武士として、それ〴〵一個の小さい城を持つてゐる心持なのだ。實際又地方に小さい城のやうな物を構へた豪士が、大名に征服された場合には、その大名の城下に自分の小さい城を持つた心持でゐない譯に行かない。「武士の住むは城だ」とは彼等の信念だつた。」

「門から眞正面に玄關を作るものではない、とよく大工などがさういふが、それは昔の

築城法の遺習なのだ。大手から本丸へは、曲り〴〵つて道を作ることになつてゐるのは防禦の爲めであることいふまでもない。門から玄關へは少しでも曲つた道をつけるといふ法則は、その遺習なのだ。」云々。

併しながら今では門の威赫的及び防禦的性質は無意味のものになつてゐます。昔は田舎に於ても豪農や郷士などは屋敷の周圍に濠を設けて萬一の場合に備へたものでありましたが、今ではそんな馬鹿げたことをする者は一人も無いでせう。それと同様に門も其の本来の性質に於ては存在の理由を持たなくなつたのですから、此當然の結果として、門は邸宅に於ける趣味的要素に變らなければなりません。そして今後は新しい住宅に於ては、全く門を廢するか、或は設けるにしても、全く趣味的のものとして取扱ふやうになるだらうと思ひます。

應募間取圖に表はれたる生活理想

新住宅社で募集した間取圖の當選作品及び選外佳作のものを通覽してみると、いろいろの事を考へざるを得ません。本誌にはその選外佳作のものが既に二種ほど紹介されてゐます。そして本誌には矢張り選外佳作のものゝ一種が出てゐます。

この間取圖の應募者は恐らく皆な新しい時代の空氣を呼吸してゐるところの若い人々であらうと想像されます。そのためか其の作品には如何にも清新な若々しい活氣と熱意とが漲つてゐるやうに感ぜられます。そして實際に其等の間取圖設計圖は此の若い建築家諸君の新しい生活理想を最も眞率に赤裸々に具體化せしめたものでありますからそのやうな清新な若々しい活氣と熱意との感ぜられるのは當然のことであると共に、それがまた他方に於て新しい時代の日本國民の生活理想の一面を代表してゐるものであると言ふても決して

過言ではなからうと思ひます。

しからは如何なる點に於て其等の間取圖が新しい時代の生活理想を表示してゐるかと言ふことを以下少しく述べてみたいと思ひます。

間取の理想が接客本位から家族本位に移つたことは此處に事新しく述べ立てる必要がありませんでせう。唯だそのやうな家族本位といふ理想が如何に具體化されてゐるかといふ事を私共は考へなければならぬだらうと思ひます。

應募間取圖は家族本位であるといふてもその家族が申し合はせたやうに小人數であることは面白い現象です。これは恐らく都會生活が教へた苦しい生活經驗の無意識的な表はれではなからうかと思はれます。設計者の生活享樂的心理は、いかに坪數が無制限であつても、決して多人數の家族を理想とすることは出来ないであります。また其處には西洋流の生活形式から來た感化のあることをも否むわけにはゆきません。何故かと言ふに、家族本位といふことを理想としてゐると共に、他面に於ては、各自の専用の室のあるべき事を必然の條件としてゐるからです。即ち小人數の家族が楽しく團樂的な生活をすることを理

想とすると共に他方に於ては各自の城塞を持つといふ事を其の理想の必然の附随条件としてゐるので。

その結果として、子供にさへも専用の室を與へなければならぬといふ事になつたのである。應募間取圖は殆んどすべて子供室の持設を主張して居ります。或は事情の許す限り特に老人室や夫人室を設けることを望んでゐるのもあります。かうなつてくると厭でも應でも客間縮少が實行されなければならぬでせう。

も一つ、設計者の生活享樂心理を物語る面白い現象があります。それは庭の廣いことを求むる心です。これも都會生活が教へた苦しい經驗が自然さうさせたのでありませう。都會に於て餘裕の無い生活を續けてゐる者は、いかに自然の美に對して言ひ知れぬ憧憬を持つてゐることであらう。そのやうな憧憬が無意識の間に設計の理想となつて表はれることは極めて當然のことであると言はなければなりません。設計者は限られたる敷地にも尙且つ割合に廣い庭を作つて自然を樂しまうとしてゐます。或は其處に花壇を作り或は其處で鶏を飼ひ或は池を設けて魚を放つたりしてゐます。

二等當選者は百五十坪の郊外敷地の殆んど四分の三を庭にして、斯う説明してゐます。——「庭園につきましては、その一部分を子供達のため果物畑に取りました。たつた二本か三本であります。これらの果物は、年々如何に子供達をよろこばすことでせうか。菜園は目下私自身も少々ながら作つて居ますが、それは實際、ほんの少々でも無ければならぬものです。」

その庭も多くは日本の傳統的な技巧を止めて自然本位になつてゐます。同じく二等當選者は「一般に言ひますと、從來の小鉢に松のひねくれたのを弄ぶことは廢して全部子供達が自由に芝生の上にも何處にでも走つたり寝ころんだりして遊べるやうにしたのです」と五十坪市街地住宅の間取圖に附記してゐます、そして尙「敷地が狭いので、なるべく青い芝生が見られる様に且つ又踏めるやうに心掛けたのです」と言ふてゐる事によつてみても、いかに自熱美に對する憧憬の強いかと分るでせう。

選外佳作第一席の作者は百五十坪郊外住宅設計圖の説明として言ふてゐる。——「敷地百五十坪に建築三十坪二合五勺ですからかなり廣い庭が充分に取れますが、泉水や樂山は

廢し、實用的に花壇、棚類、蔬菜園、子供の遊場等を廣々と取る事に致しました、鶏も家鴨も飼ひます。かなり廣い庭に女中も置かず、手不足かと皆様は思はれるか知れませんが、決して此位の坪數なれば私の經驗上一つも手不足する様な事はないと斷言致します。」

尙此の作者は垣根にも薔薇を這はせて美しく花を咲かせるのだと附記してゐます。

このやうな自然の美を享樂する心理の當然の結果として、家屋の一部を自然に直ぐ接觸し得るやうな構造にすることを要求します。從來の日本風の家屋ならば、そのために縁側といふものがあります。しかし新しい住宅理想にとつては種々の點で縁側の存在が贊成されません。それ故に應募間取圖の多くは特にヴェランダ或はバルコニーを設けてゐます。ヴェランダの直ぐ下まで池の水の來てゐるのもあります。選外佳作第二席の作者は百坪の郊外住宅に於て在來の縁側を廣くしてヴェランダ式とし、子供の雨天遊技場としたり夏の涼み場所にしたり一寸した洋食など採る所に充てゝゐます。また洗濯などした矢先雨が降り出した場合など此處へ持込んで乾かすによいのだと言ふてゐます。そして此のヴェランダの上に當る二階の一部をバルコニーとし「丁度南に面してゐますから朝早く起きて顔を

洗ひ洗面所を出ますと朝の清らかな空氣と美しい日光とが思ふやうに得られます」と説明してゐます。

同じ作者は百五十坪の郊外住宅に於て玄關の西に簡単な應接間を取つて一々靴や下駄などを脱いだりする面倒を避けるやうにしてゐます。斯ういふ點も新しい住宅上の理想として考へなければなりません。

それから面白いことには、神棚や佛壇を考慮の中に置いて設計した人は殆んど無いといふことです。これを舊思想の人々は何と觀察するでせうか。新しい時代に若い人々の追求する生活理想には家族の團樂と自然美の享樂とはあるけれ共、神様や佛様は無いのでせうか。



刷印日五十月七年一十
行銀日十一月七年一十正大

里多口森 者作者
子とい 林

著者代アルプ社會資合
雄 鐵 原 北 者 行 發
號五地新町銀尾座銀五橋京市東京

郎 太 源 本 山 者 刷 印
五四町盛久區川石小市東京

子 金 本 製

文化的住宅の研究

定價參圓五拾錢

發行所
東京橋區
銀座尾張町
會社
アルプス

電話銀座二一九三番
振替東京二四八八番

重徳泗水氏著 佛蘭西の最新知識 定價貳拾七錢

ストウナ夫人著 中村八郎氏譯 どうして小兒を育てるか 定價貳圓參拾錢

堺利彦氏著 理想郷 定價壹圓六拾錢

大矢好治氏著 西洋草花の作り方 定價壹圓貳拾錢

石井重美氏著 宇宙生物及人類創成 定價貳圓六拾錢

山田耕作氏著 近代舞踊の烽火 定價壹圓四拾錢 送料拾參錢

小松耕輔氏著 西洋音樂の知識 定價貳圓六拾錢 送料拾七錢

前田三男氏著 音樂の常識 定價貳圓貳拾錢 送料拾七錢

フイインタ著 泰西の其作家 定價貳圓五拾錢 送料拾七錢

前田春聲氏譯 歌曲と 山田源一郎氏著 樂譜の讀み方 定價壹圓參拾錢 送料拾參錢

山田耕作氏曲 小唄 樂譜 AIYANの歌 定價貳圓五拾錢 送料拾七錢

小松耕輔氏曲 小唄 樂譜 沙羅の木 定價貳圓七錢 送料拾七錢

小松耕輔氏曲 小唄 樂譜 象牙の笛 定價壹圓八拾錢 送料拾壹錢

小松耕輔氏曲 小唄 樂譜 小鳥の唄 定價壹圓 送料拾壹錢

小松耕輔氏曲 小唄 樂譜 銀の胡弓 定價壹圓 送料拾壹錢

7257-11

北原白秋氏著 白秋詩集全二卷 定價各三圓八拾錢 送料各拾七錢

三木露風氏著 象徴詩集 定價貳圓八拾錢 送料拾八錢

蒲原有明氏著 有明詩集 定價參圓五拾錢 送料貳拾參錢

室生犀星氏著 室生犀星詩選 定價貳圓貳拾錢 送料拾七錢

萩原朔太郎氏著 詩集月に吠える 定價貳圓五拾錢 送料拾七錢



終